

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500115		
法人名	NPO法人 健寿会		
事業所名	グループホーム明香里		
所在地	熊本県天草市二浦町龜浦1066番地6		
自己評価作成日	令和 4年 10月 1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和 4年 11月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた当グループホームは、移り変わる周囲に景色を眺めながら日々暮らしています。四季折々の行事を大切に、毎年の梅干し作りや干し大根作り等の保存食作りも恒例になっております。また、毎日、田んぼの周りを散歩したりお弁当を持っての遠足等は、当グループホームならではの楽しみ方でもあります。
「あなたの想いごとことん考えとことん付き合う」という理念を職員全員で共有し、ご利用者の想いにお付き合いすることはもとより、地域の皆様とのお付き合いである交流を図ってきました。ここ数年はコロナ禍のため、開催することができませんが、グラウンドゴルフ大会や徘徊模擬訓練等も開催してきました。現在は地域の奉仕作業や行事に参加する等、地域の方々との馴染みの関係は続いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域高齢者を支える事業所としての役割を明確にしたホームでは、理念の他目標の3項目の実現にまい進している。コロナ禍という難局に、個別ケアの実践や工夫した外出(職員の提案による少人数での外出等)、シルバー作品展への出品活動は利用者の自信回復やできる力の発揮、日常生活の彩りとして生かされている。新管理者という変革期に、管理者を中心として職員同士意見が言い合える環境や良好なコミュニケーションとなる等、サービスの質の確保に向けた大きな要因の一つであり、委員会活動を通じたスキルアップにも努めている。地域貢献として地域活性化を見据えた多世代交流(芋ほり)や、配食サービスは地域高齢者の見守りや食支援として生かされ、“明香里だより”による情報発信や運営推進会議が地域の認知症ケア推進となる等、この地で確固たる基盤が築かれ、インターン生の受け入れ等人材育成に努めるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年3月、部署会議で意見を出し合い目標を設定している。法人の理念と事業所目標を、見えるところに掲示し、共有し実践に繋げている。	理念及び年間目標3をケア規範とするホームである。利用者を人生の先輩として感謝する気持ちを持つことや、個別ケアの充実では職員の提案による少人数での外出、人が少ない場所・時間帯での外出等工夫し、医療と介護との連携及び利用者の安心安全の提供には看護職員を充実し、利用者及び家族の思いであるホームでの最終章の希望に対応する等目標を具体化させている。年間目標を評価し次年度へ繋げる体制として振り返る等全職員が理念及び目標達成に真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月発行している「明香里だより」は地域の回覧板で回し、地域の商店などにも掲示している。 草刈り作業などの奉仕作業や地域の行事に積極的に参加している。	地域の草刈り作業や総会へ参加する等自治会の中の一つの家として地域に関わり、シルバー作品展(社協主催)への出品は入居者の生活にメリハリやできる力の発揮として生かされている。コロナ禍により、入居者との交流は難しい状況にはあるが、小学生とのサツマイモの植え付けから収穫等世代間交流に取り組んでいる。喫茶明香里、保育園跡地でのロコモ体操等地域の中で精力的に活動する等これまで築き上げてきた地域の中での基盤は確立している。明香里だよりの地域への回覧は認知症ケア推進の一環となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊模擬訓練や小学生を対象に認知症サポーター養成講座を毎年企画していたが、コロナ禍のため実施しない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設しているデイサービスと合同で開催している。最近では書面での開催が多くなったため画像を用いてホームの活動状況を説明し、各委員会の開催、アンケート調査結果などの報告などわかりやすい文書になるように努めている。記述方式とし、毎回意見を募っている。	新型コロナの感染状況により対面か書面審議として毎回項目毎に意見を書面で収集する体制とする等意見を委ねる会議であり、開かれた運営体制である。配食サービスの継続について等双方向の充実した会議であるとともに、日常生活はスライドショーによる開示やインターン生の受入れに合わせる等創意工夫も見られ、充実したメンバー構成により開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「明香里だより」は包括支援センターにも配布している。包括支援センターからは、運営推進委員として参加があり、情報交換の場になっている。	地域包括支援センターとの良好な関係が築かれ、運営推進会議での情報交換や、行政からはコロナ感染症関係の情報(国・県等)などメールで寄せられている。介護保険更新を代行し、訪問調査に利用者の情報発信や意見交換を行う等相互協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各事業所合同で「身体的拘束廃止・虐待防止委員会」を設置し、意見交換や勉強会を開催している。委員会以外でも職員一人一人が動画配信の視聴するなど自己研鑽の場を設け理解を深めている。	グループホームでの話し合い、合同での身体的拘束廃止・待防止委員会での意見交換やアンケートを通じて意見を交わしている。介護をされている側になり疑似体験(例:無言の食事介助、言われるがまま食べる等)により不適切なケアを無くすよう取り組んでいる。入居者の外出傾向を把握し所在確認の徹底や、何かをしてほしいとの要求に出来ることに取り組んでもらったり、居室入り口の暖簾に鈴を付ける等工夫しながら拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、委員会で学ぶ場を設けている。不適切ケアについて考えたりやチェックリストを用いたりしながらケアの振り返りを行い改善に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の尊厳や制度については、学ぶ機会を設け、不適切ケアについても理解を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や変更時には、分かりやすい説明を心掛け、理解と同意が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、満足度などのアンケート調査を行い調査は家族、職員、運営推進会議でも報告した。運営推進会議には、家族代表の参加があり、貴重な意見を頂いている。	新型コロナの状況により面会方法を決め青空面会として中庭やテラスを活用し、家族から意見等を聴き取りしている。運営推進会議も問題提起の場として生かされ、参加家族以外にはホーム内に掲示している。また、毎月の担当職員による手紙による状況発信が家族の不安解消として生かされ、家族へのアンケート調査をサービス向上に反映している。	コロナ禍には家族が一堂に集うことは難しいと思われるが、時期を見て家族同士の交流会等検討いただき、家族の忌憚のない意見等の収集の場とされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや部署会議等は、職員が自由に発言できるようにし、記録に残すことで情報の共有を行っている。年に1回は、法人代表者との面談がある。	新管理者として職員とのコミュニケーションを図りながらホームの体制を新たにしている。朝の申し送りや部署会議等自由な発言の場としており風通しのよい環境である。また、充実した委員会活動等全職員が志向を高くして臨み、代表による個人面談により意見や希望等を収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの希望があった場合は、働きやすい時間帯や曜日など臨機応変に対応している。 職員一人ひとりが、年に1回目標設定や自己評価を行い、キャリアアップ制度があることで、職員の意識向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学びたい事や学んでほしい事があれば、参加できる環境にある。最近はWEB開催、動画配信視聴が多くなり、学びの場が増えている。介護福祉士試験・受験対策勉強会も毎年実施されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、実施できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は不安な事が解消できるように、ご利用者との時間を多く持つようにしている。会話や生活の中で「その人らしさ」を模索し、安心した生活ができるようにし、活動参加、役割作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に要望など意見をお聞きしている。入居後も、電話連絡などを通じて状態の報告を行い、ご家族との信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅担当CMからの情報収集をしたり、ご家族から聞き取りを行い、在宅生活の延長上の暮らしが出来るように努めている。また、同建物内のデイサービスが馴染みに方については、デイの職員が顔を見せたりデイで過ごす時間を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が過ごす事が多いリビングは交流の場になっている。職員は、ご利用者のできる事できない事の把握をしたうえで役割を見出し、様々な活動に参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、家族間との交流が十分にできていない。毎月、お便りを発行し個別に各担当者からご家族あての手紙を出したり、電話で報告したりしながら関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症のため、馴染みの人達との交流は難しい状況にあるが、人気の少ない時間帯にお墓参りや買い物、ドライブに出掛けるなどし支援に努めている。	盆・正月の墓参、命日の墓参、郵便局へのハガキの購入等社会性の継続、お彼岸参りとしてのドライブ(牛深八幡宮)、自宅への帰省、お盆の迎え団子・送り団子や彼岸団子等馴染みの人との関係継続はコロナ禍で難しいが、場所や慣習等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でも関係性があるので、座る場所に配慮し、会話や活動が楽しめるように支援している。廊下には休めるように椅子を設置しスゆっくりと休めるペースを設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動された利用者は今までなく、逝去されたことで利用終了となる場合が多い。49日目や初盆時に自宅訪問し、ご家族と話をすることで気持ちの解消ができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	したい事や行きたい所など日々の活動や会話の中で利用者に見えたり、思いをくみ取ったりしながら本人の意向に沿えるよう努めている。	日常の会話から行きたい場所、例えばレンコン畑に行きたい等職員が把握した事案を具体的に実践している。自分の希望や意向を出されない方には家族に聴き取りする等家族との連携を密にし、自発的な言葉での意思確認が困難な状況に笑いをバロメーターとして捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅担当CMや入居時の面談の際、ご家族からの情報収集を行っている。ご家族との会話の中で、把握できる事も多いため積極的にお尋ねしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングや部署会議等において、利用者の状態や気になる事などを話し合い、職員間で情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者ご家族のご意向に沿えるように介護職、看護職との話し合いの場を設け、介護計画に反映している。また、モニタリングは介護職員と一緒に実施し、ケアの振り返りをする事ができている。	職員がケアへ生かすべく計画として毎日プランに即した記録を行い、担当職員によるモニタリングをケアマネジャーによる再チェックを行い、実施状況や満足度などを踏まえ方向性を見極めている。定期的な見直しや退院後の見直しが行われ、本人の希望や家族の思いが反映された具体的かつ個別的なプランが作成されている。家族の意向や本人の思いとしてお盆や彼岸には墓参をしたいとして希望を組み入れ実践する等“個”に焦点を当てたプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中から夜間の状態や家族、医療機関との連携を、1枚の記録用紙に記載しているの で見直しすることができる。職員間の共有事項は「申し送りノート」に記入するようにし、実践に繋げる事ができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の事業である配食サービスは、入居者と一緒に配達に出掛けている。小学生との交流事業(芋ほり・クリスマス会・秋祭りなど)は楽しみの一つだったが感染症の為、中止にせざるを得ない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室や病院、郵便局や小店に出向くと、地域の人達との交流がある。地域で行われている行事(スポレク祭・どんどや・奉仕作業など)にも参加していたが、感染症の為、参加を控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もご利用になっていたかかりつけ医との連携を行い、慣れ親しんだ主治医と関係が継続できるように、支援している。現在、施設往診はなく、直接病院に出向き受診支援を行っている。	在宅時からのかかりつけ医を継続して支援しており、現在5か所の医療機関の受診や専門医への受診を職員で対応している。コロナ禍にあり、頻回な病院受診はせず、何かあれば支援するとしている。新たな看護職員の勤務が、他の職員も看護医療について更に認識を深めている。口腔ケアについては毎食後の歯磨きや義歯の管理と、必要に応じて歯科受診が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師の配置と併設デイの看護職員の協力により、日頃の健康状態の観察ができ、昼夜を問わず急変に対応が可能になった。早めの受診や生活上の注意点など看護職からのアドバイスがある事などで、ご利用者の健康維持に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、同行しADLや生活状況などの情報提供を行っている。入院中は、早めに医療連携室と連携をとり、ご家族とホーム側の意向を伝え、退院に向けて動いている。必要であれば病院リハビリ職との連携をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、介護計画見直し時は、ご家族の意向確認を行っている。ご家族や主治医には状態の報告をこまめにに行い、状態に応じた支援ができるよう努めている。最期まで明香里で過ごしたいと希望される利用者は多い。今までの看取り支援を踏まえ、看取りに関するしおりを作成したいと考えている。	入居時に重度化・終末期支援に関するホームの取組の説明により、殆どの家族がホームでの看取りを望まれている。今年度の看取り支援では、医師との連携とともに家族も好物であるゼリーを持参される等積極的に関わり、感染症に配慮しながらの面会も行われている。職員は看取りの関する研修(死生観について等)によりホームとしての姿勢を共有し、支援後はカンファレンスにより意見を交わしている。	グループホームでの最終を望まれる家族も多く、普段の関わりを大切に支援されている。これまでの経験をもとに『看取りに関するしおり』の作成が検討されている。ご家族等への情報提供として大いに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡方法など勉強会を開催している。連絡網などは見えるところに掲示し、慌てず対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	自然災害時の対策について、委員会が発足された。災害発生時の勉強会で、災害発生時のシュミレーションし、必要な物品や利用者への支援方法を検討した。風水害・火災(日中・夜間)を想定し訓練を実施している。毎年地域の防災訓練に参加していたが、コロナ禍のため、近年開催されていない。避難訓練には毎年、近隣の方々(4~5名)も加わり一緒に訓練を実施している。	9月に水害を想定した訓練を実施し、広報誌で訓練の内容や様子、訓練後の課題等が写真付きで紹介している。11月中には、夜間火災訓練を19時から予定している。備蓄については、今後保管場所を確保していく予定である。BCP作成としての委員会を立上げ、感染症対策、罹患者発生時マニュアルの確認、災害対策の内容確認等を行い、自動通報に地域住民も入ってくださる等近隣住民との協体制により有事に備えている。	毎日安全チェックとして火元確認が行われている。更に安全チェック表による細かな項目の点検が期待される。また、感染症の状況を見ながら家族の訓練への参加や協力が得られることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会において不適切ケアや人権について学び、言葉かけの仕方で不快感を感じた時には、職員間で注意をしたりアンケートを用い各自振り返りを行っている。	職員から馴れ合いの言葉や不適切と思われるケアについて反省があがった際は、目標に掲げ改善に努めている。呼称は苗字や反応などから下の名前など個々に応じて検討し、居室へ入る際は声掛けやノックを徹底している。身だしなみの支援として衣類は一緒に選んでおり、髪のカットは以前外出を兼ねて美容室を利用される方もおられたが、感染症への対応からホーム内で支援している。入浴支援など同性介助や、食事中こぼしがちな方にタオルで対応するなど、プライバシーに配慮している。入居者の役割や楽しみのある日常生活を支援しており、変わらぬ取組が期待される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者との会話の中で要望を伺ったり意思疎通が困難な場合は、思いを汲み取ったりしながら支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、できる事を一緒にいながら支援をしている。できる事の見極めは、利用者の役割作りになり、率先して行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服が選べるように整えている。季節や気温によって調節ができない場合は、必要に応じて支援を行っている。洗面所には、寝ぐせ直しやヘアブラシなどを設置し、ゆっくりと身支度ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、野菜の下ごしらえ(剥く・切るなど)や季節の行事食作りは一緒に行い、片付けまで行われている。食事形態や量などを変え、一人ひとりに応じた物を提供している。	ホームでの調理を継続し、栄養面や個々の状態及び嗜好を考慮した食事の提供は家族にとって安心に繋がっている。食材には近隣や家族からの差し入れ野菜や、芋、トマト、キュウリ、ピーマンなど入居者と一緒に育てたものも活用されてる。調理には専任者が中心に関わり、食材の下ごしらえ、団子や干し柿作りなど入居者の出番や楽しみ事も用意されている。行事食の他、入居者の希望を聞き、サンデークッキングとしてカレーや親子丼の提供等入居者の好みを反映した食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量は、一覧に記入し把握できるようにしている。摂取量が十分でないと感じられた時には、好きな食べ物や飲み物を提供し必要に応じて経口補助食品を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声かけと介助を行っている。声かけで仕方を伝えたり義歯を外して全介助をしたり一人ひとりの応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品の導入については、なぜ必要なのか、私たちができる支援はないかなど職員間で十分話し合うようにしている。排泄間隔を理解し、活動の合間をみてトイレ誘導を行っている。	個々に応じた排泄用品の使用や支援方法などを検討している。また、これまで介護の経験がある入職者にもホームの取組や姿勢を伝えている。リハビリパンツを使用されていた方も入居後は布パンツに移行された方や、介護5の方もパットを併用しながらリハビリパンツで過ごされ、トイレ誘導も行われている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、日中クロスを掛ける等プライバシーに配慮した取組である。便秘がちな方にはマッサージや薬草、紅茶の甘味にオリゴ糖を使用するなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後の冷水飲用、オリゴ糖の摂取、腹部マッサージや温罨法など実践中である。排便の有無確認を行い、一人ひとり応じて下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕食の前後の時間に合わせ、14:00～と18:00～の2回、各2～3名ずつ(1日4～5人)をご案内し入浴の時間がゆっくりと楽しめるようにしている。行事に合わせ、ゆず湯や菖蒲湯も行っている。	夕食の前後に入浴時間を設け、汚染時はその都度シャワー浴も行いながら不快なく過ごせるようにしている。入浴は希望があれば毎日可能であることを入居時に書面でも説明しており、夜間の入浴を支援している。赤や桜、緑など色や香りも楽しめるよう入浴剤を使用し、季節湯(菖蒲・柚子)は数日間実施し全員が入れるようにしている。シャンプー類はホームで備えているが、お気に入りなどを個別で準備される方もおられる。	浴室内は清潔に管理されており、窓棚に置かれた物品の収納などにも配慮することで、更に寛げる空間になると思われる。取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝までリビングでテレビを視聴されたり、職員と掃除や食事の片づけをされたりしている時間がある。就寝前の夜間入浴は、寝付けられない利用者の安眠の手立てとなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の調整は、看護職と相談しながら行い不安や不明な点は、薬剤師や担当医との連携を図っている。また、服薬説明書は更新し、ケースに挟みいつでも見れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族や本人の意見、活動の様子からできる事を見つけ出し、役割作りに繋げている。外に出る機会を作り、散歩やドライブ、畑での作業も好まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの商店に買い物に行く機会がある。その日の材料やちょっとしたお菓子を購入し、お店の方と話をしたりする事を楽しんでいる。感染症の為、地域の人や家族との外出はできていないが、花見や足湯、遠足などは出かけている。	今年目標に個別ケアの充実を掲げ、少人数での活動を外出支援にもつなげている。敷地内の散歩をはじめ、近隣商店での買い物、花見や足湯体験、入居者の要望である煮しめを入れた弁当を持っての遠足など、感染症に配慮しながら外出支援に努めていることが聞き取りや広報誌からも確認された。また、デッキでは日光浴やお茶を楽しんだり、田植えから収穫までの様子を間近に見ながら過ごされている。	入居者の一言「レンコン畑に連れて行って欲しい」や路木川探索、牛深八幡宮へのドライブなど、入居者の希望や負担なく外出が楽しめるよう、時期なども考慮して取り組んでいる。今後も変わらぬ支援が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診や日用品の購入のため、家族に説明し預かり管理している。用途は、出納帳に記入し、毎月家族に写しを送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や母の日など贈り物が届いた時は、電話をかけ話をする機会を設けている。年賀状や塗り絵、手紙を家族あてに送る事も楽しみになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から見える景色は田んぼの緑が広がり、自然に入ってくる風や日差しが心地よい環境にある。摘んできた花を飾り、利用者間で作成した貼り絵などの手工芸品も展示している。一人ひとりがお気に入りの場所で過ごされている。	ホーム内には敷地内などに咲いた草花を飾ったり、入居者と一緒に作成した貼り絵などの掲示により季節感を醸している。黒電話や時代を思わせる家具など入居者にとって懐かしい品も大切に配置されている。ウッドデッキは、日向ぼっこやソーメン流しの場としたり、訪問当日も干し柿が下がった光景など入居者が季節やその時々で楽しめる場所として活用されている。	マスク着用や消毒の徹底など、入居者にとっても以前にはない光景はしばらく続くと思われる。今後も豊かな自然や職員の明るい対応により、穏やかな時間の提供に努めていかれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性を考慮し、テーブルやソファの配置をしている。中庭やベランダには出入りすることができ、花を愛でたり自然の風にあたることのできるよう環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具や似ている物を設え、家族からの送り物、写真などを飾り、居心地のよい居室作りに努めている。	居室の環境づくりとして、馴染みの家具や使い慣れた品の持ち込みを家族へ依頼している。趣の異なる居室には、三面鏡や家具、必要な日用品などが配置され、自身の部屋とわかるよう、『私のおへや〇〇〇』と掲示したり、身体状況から布団にマットレスでの就寝など個別の対応している。天候の良い日は寝具を干し、気持ちの良い安眠に繋げており、部屋の掃除も入居者と一緒に行っていることも家族へ伝えることで安心に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや椅子を設置し、無理なく移動ができるようにしている。「お風呂」「トイレ」などの表示は、目線の高さに合わせ図と文字を使って分かりやすいように掲示している。		